HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	資料紹介 ： 全国青研レポート「青年議会」
Author(s)	辻, 智子
Citation	北海道大学大学院教育学研究院紀要, 144, 159-174
Issue Date	2024-06-28
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.144.159
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92941
Type	departmental bulletin paper
File Information	09-1882-1669-144.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

資料紹介：全国青研レポート「青年議会」

辻　　智　子*

【目次】

１．資料概要
２．レポートの作成経緯
３．全国青研レポート：「青年議会」
４．小括

【キーワード】全国青年問題研究集会，青年議会，実践報告，日本青年団協議会

１．資料概要

全国青年問題研究集会レポート（以下，全国青研レポート）とは，地域で様々な活動を行っている青年たちの実践報告集録であり，全国青年問題研究集会（以下，全国青研）における分科会討議のために参加者自身が執筆した活動報告である。レポートは集会年度ごとに冊子として作成され，参加者・司会者・助言者らに配布され，集会の主要な活動である分科会討議で活用されてきた。全国青研の主催者は日本青年団協議会（以下，日青協）であり，本資料は一般財団法人日本青年館資料室にすべて所蔵されている。年１回開催されてきた全国青研への参加者は1955年～2021年の約70年間でのべ約２万人にのぼる（表１）。

全国青研の開催経緯と第１回大会の内容は拙稿「1950年代前半期における青年教育の模索―全国青年問題研究大会開催経緯にそくして―」（『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第140号，2022年６月）に詳述した。青年学級法制化をめぐる議論において政治や社会情勢への問題意識を深める中で，青年期教育を勤労青年教育として検討する必要を自覚した日青協が，「青年が自発的に行う，より自由な活動」としての青年活動を青年たち自身が省察しつつ「研究」しあう青年問題研究集会（第１回は「研究大会」）を構想した。そこでは，参加者が自身の活動や経験を報告し，それをめぐって問題をあぶりだし，それを他の参加者と共有しつつ探求を深めることが目指されたが，その手がかりが「レポート」であった。集会参加にあたり事前に執筆して提出することが求められたレポートには，各々の活動の実情とそこでの問題や課題，それに対する考えや取り組みを具体的に記することが期待された（資料１）。この参加者レポートにそくして，数日間にわたる集会での長時間におよぶ分科会討議が行われるが，そこでは，司会者・助言者が進行を担い，適宜必要と判断される助言を行いながら参加者の議論を促した。その過程で，レポートに書かれていないことが話題となったり，その背景や要因について討議が行われたりすることとなる。

1955年～2021年の全国青研において１回あたりの参加者数が最も多かったのは1959年であり，

* 北海道大学大学院教育学研究院

DOI：10.14943/b.edu.144.159

表１　全国青年問題研究集会参加者数の推移

年	回数	参加者数		
		参加	オブザーバー	総数
1955	第１回	106	200	306
1956	第２回	216	400	616
1957	第３回	421	900	1321
1958	第４回	425	1000	1425
1959	第５回	522	1000	1522
1960	第６回	510	900	1410
1961	第７回	540	800	1340
1962	第８回	437	500	937
1963	第９回	418	430	848
1964	第10回	390	300	690
1965	——	232	232	464
1966	第11回	363	130	493
1967	第12回	316	137	453
1968	第13回	367	120	487
1969	第14回	516	300	816
1970	第15回	450		450
1971	第16回	503		503
1972	第17回	407		407
1973	第18回	401		401
1974	第19回	452		452
1975	第20回	394	114	508
1976	第21回	463		463
1977	第22回	495		495
1978	第23回	537		537
1979	第24回	534	181	715
1980	第25回	650		650
1981	第26回	539		539
1982	第27回	507		507
1983	第28回	530		530
1984	第29回	505		505
1985	第30回	475	39	514
1986	第31回	409	85	494
1987	第32回	346	25	371
1988	第33回	411		411
1989	第34回	416	68	484
1990	第35回	402	44	444
1991	第36回	327	49	376
1992	第37回	333		333
1993	第38回	335	54	389
1994	第39回	312	39	351
1995	第40回	288	26	314
1996	第41回	302	27	329
1997	第42回	258	22	280
1998	第43回	201	34	235
1999	第44回	159	9	168
2000	第45回	166	10	176
2001	第46回	163	9	172
2002	第47回	181	13	194
2003	第48回	156	9	165
2004	第49回	104	5	109
2005	第50回	137		137
2006	第51回	118		118
2007	第52回	122		122
2008	第53回	111	4	115
2009	第54回	101	1	102
2010	第55回	71	1	72
2011	第56回	77	2	79
2012	第57回	81	6	87
2013	第58回	95	10	105
2014	第59回	99		99
2015	第60回	82		82
2016	第61回	62	4	66
2017	第62回	58		58
2018	第63回	52		52
2019	第64回	36		36
2020	第65回	0		0
2021	第66回	44		44
合計（のべ）		**20236**	**8239**	**28475**

（出所）日本青年館提供資料等より作成。

（注１）「参加」はレポートを提出した参加者，オブザーバーは概数（空欄は不明）。
（注２）第１回（1955年）の集会名称は「全国青年問題研究大会」。
（注３）1965年，2018年，2019年，2021年はレポート数を参加者数とした。
（注４）1965年は全国青研に代って「青年団活動家中央集会」として開催された。
（注５）第65（2020年）は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった。
（注６）2022年以降も全国集会は開催されているが，レポート集は作成されていない。

1,522人が参加，480本のレポートが寄せられた。「静かなる人間革命」とも言われた全国青研の報告書は単行本『日本の青年』として発行され，分科会報告とともにレポートの抜粋も広く共有された時期もあった。また，各道府県・郡市・町村等でも同様の集会活動の取り組みが行われた。「青研（せいけん）」は，日本の戦後における青年による地域活動や勤労青年教育の中で独自の学習文化を形成していたと言える。

そこで本稿では全国青研レポート（1955～2021年）を歴史的資料として紹介する。各時代において青年たちの手によって書き記された言葉の集積は，生活の場における青年たちの経験と集団活動の足跡を伝えるとともに，「当事者」「実践者」としてその渦中にある青年が，自身が置かれた状況をレポート執筆という方法で対象化する機会を得た時に何をどのように表現したのか，その一端を伝えるものでもある。

2．レポートの作成経緯

全国青研を主催する日青協は，現在の日々の暮しの中で青年たちが直面している問題から社会や国家や世界の問題までを広く視野に入れた上で，それを生活の場での集団的実践活動に結びつけて考え，集会翌日以降に連なる日常の生活と活動を励ます機会とすべく，毎年のプログラムを担当者が工夫をこらして練り上げていく。基調提案，記念講演，実践報告などの全体会もプログラムには盛り込まれてきたが，中心を占めるのは長時間におよぶ分科会討議である。設定される予定の分科会は募集要項で示され，参加はそれを見て応募し，レポートを執筆していく。そして，参加者とレポートの状況を受けとめながら，実際の集会では調整を加え，分科会が構成される。どのような司会者や助言者がふさわしいかも，その際に調整・決定がなされる。1955年から1994年までの全国青研の部門・分科会構成を一覧にしたのが表２である。分科会テーマは多彩であり，レポート本数も膨大であることが確認できる。また，資料１は，主催者である日青協が全国青研をどのようにとらえていたかを示すものである。1955年から現在に至るまで，その主旨は完全に一貫したものであるとは必ずしも言えないが，少なくとも1990年代頃までの基本的な方向性は資料１から知ることができる。

資料１　「青研集会の手引」（1980年）

はじめに

青研集会は，日頃の活動を交流し，青年団活動の現状を明らかにし，青年団活動の展望を見い出す重要な集会である。一人ひとりの仲間の活動を基礎に，お互いが高めあう共同学習の集約の場として発展してきた青研集会は，社会情勢の変化にもかかわらず，その重要性はいささかも減少するところはない。地域で青年が生活している限りにおいて青年問題はなくなることがない。青年問題が存在する限り青年運動が消滅することもない。その意味において，一人ひとりの仲間の生活体験は青年問題研究集会の貴重な材料である。また青年の生活そのものが青年団活動の出発点であり，到達点でもある。

青研集会は文字通り仲間の生活を通したなまの実践記録が基礎となる。青研集会はお互いの活動を点検しあい，青年団活動の方向を導き出す場でもある。青研集会は，青年団運動が生み出した貴重な財産である。ある意味ではこの集会こそが日本の青年団運動をこれまで支えてき

たといってもいいすぎではない。多くの活動家が青研で育ち，生れてきた。

今，青研集会が地域でなくてはならない存在として機能しているだろうか。青研集会を開いていない県団もいくつかある。形骸化した行事としてこなしている県もある。市町村青年団の開催がいくつかの県を除いてかげをひそめてきた。こうした傾向は，とうぜん，全国青研の内容に反映してきている。生活体験のない評論的レポートが多くなり，具体的実践記録が少なくなりつつある。自らの生活感や体験を記したレポートも少なくなった。

青研集会は，現在，重大な岐路にたたされているといってよい。それはとりもなおさず，青年団活動そのものの重大な警告ともなろう。

しかし，ここ一〜二年，青年の生活を通してのふれあいの場として，青研を見直す動きも急である。町団のみならず，地区団においても青研集会がもたれているところもある。県青研以上にレポート，参加者を求めている市町村青研も生れている。青年団運動の底流に地域に生活する青年としてのふれあいや連帯をもとめる流れが，出はじめている。共同学習の見直しや，生活史学習，若衆宿の復活などはそのあらわれのひとつであろう。

青年団活動はこの底流をいかに本流と合流させるかが問われている。この底流を本流として定着させるには，仲間の生活実態から出発し，生活を通しての連帯，人間としてのつきあいの実現いがいにない。そうした仲間の生活を，お互いに探り連帯を築き，青年として，生きる喜び，青年団員として活動することの誇りを青研集会は与えてくれるはずである。そうした連帯の広場にしなくてはならない。全国青研を成功させるかどうかは，参加する仲間たちの，そうした本音がいかに交換されるかできまる。

この手引が，多くの仲間によって活用され，全国津々浦々で青研集会がもたれ，青年団運動が飛躍的に前進する1980年代になることを期待してやまない。

一九八〇年一月

（出所：日本青年団協議会『青研集会の手引（第２版）』1984年，巻頭）

（注：本資料「はじめに」以降の内容構成は以下の通り。「Ⅰ 青研集会とはなにか」「Ⅱ 青研集会の生いたち」「Ⅲ 町村郡市青研集会のもち方」「Ⅳ 実践レポートについて」「Ⅴ 司会者の心得と役割」「Ⅵ 助言者と参加者の心がまえ」「Ⅶ 問題のとらえ方」。）

表２　全国青年問題研究集会における部門・分科会の構成

年	回数	部門（部会）構成	分科会構成	レポート数
1955	第１回	（なし）	1.青年生活，2.女性，3.民主主義，4.青年教育，5.組織	112
1956	第２回	1:青年の生活，2:青年の学習活動，3:青年の組織活動，4:社会をよくするための活動	1青年の生活，2.1話しあい，生活記録など，2.2教育制度，視聴覚など，3.1サークル活動など，3.2運営の民主化など，3.3プログラム・機構・財政・機関紙など，4.1生活改善・因習打破・新生活運動など，4.2政治，社会など	179
1957	第３回	1:青年の生活をたかめる運動，2:社会をよくするための活動，3:青年の暮らしと学習活動，4:青年のための組織活動，5:生産をたかめる活動	1.1青年のくらしと仕事，1.2団活動と自分のくらし，1.3仲間のなかの恋愛と結婚，2.1新しい結婚と社会のしくみ，2.2村の中の因習と新らしい動き，2.3村の中でやった新生活運動，2.4村の中の衣食住改善，2.5暮らしと政治学習，3.1仲間づくりと部落団活動，3.2仲間づくりとしての演劇，映画，コーラス活動，3.3生活記録と話しあい，3.4青年学級と仲間づくり，4.1これまでの反省と新しい組織，4.2組織の歴史と町村合併後の活動，4.3組織の中のグループ・サークル活動，4.4組織のなかの女子活動，4.5組織活動としての機構と財政，4.6都市の青年団活動，4.7組織をつよめるための機関紙活動，4.8生産ととりくむ組織活動，5.1稲作に関する活動，5.2作物栽培に関する活動，5.3酪農と養鶏に関する活動，5.4土壌改良に関する活動，5.5新しい家づくり村づくりのための活動	443
1958	第４回	1:青年の生活，2:生産活動，3:学習活動，4:組織の問題，5:社会をよくする活動	1.1青年団と自分のくらし，1.2二，三男問題，1.3恋愛と結婚，（特)1都市の青年団活動，(特)2漁村の青年団活動，2.1水田地帯の活動，2.2畑作地帯の活動，2.3有畜農業の問題，2.4新しい村づくりと農家経営，2.5生活改善と女子の生産活動，3.1学習をすすめるためのグループ・サークル，3.2文化サークルや文化クラブの活動，3.3生活記録運動，3.4青年学級と定時・通信教育，4.1青年団の歴史と新しい組織活動，4.2組織の中の女子活動，4.3組織の機構と財政，4.4情報宣伝活動，5.1家や部落の民主化，5.2町や村の民主化，5.3団の政治と社会活動	416

1959	第５回	1:青年の生活，2:生産活動，3:学習活動，4:組織の問題，5:社会活動	1.1農山村のくらし，1.2近郊農村のくらし，1.3都市の暮らしと中小企業の問題，1.4漁村のくらし，1.5二，三男，出稼ぎの問題，2.1水稲栽培の近代化，2.2畑作の改善と共同化，2.3家畜飼料と飼育の問題，2.4女子の生活と生産活動，2.5兼業農家の問題，3.1女子の学習活動，3.2演劇・映画・音楽・読書活動，3.3生活記録による活動，3.4青年学級と定時性・通信教育，3.5共同学習の問題，4.1グループ・サークルと地域組織，4.2情報宣伝活動，4.3財政の問題，5.1家や部落の問題，5.2地方政治の民主化，5.3国の政治と地域活動	480
1960	第６回	1:青年の生活，2:生産活動，3:学習活動，4:組織の問題，5:社会活動	1.1農山村のくらし，1.2都市のくらしと中小企業の問題，1.3二，三男，出稼ぎと兼業農家の問題，2.1水稲栽培の近代化，2.2畑作の改善と共同化，2.3農業経営の合理化，2.4女子の生活と生産活動，2.5農政の問題，3.1演劇・音楽活動，3.2話しあいと生活記録・読書活動，3.3勤労青年教育の問題，3.4共同学習の問題，4.1青年団におけるグループ・サークルの問題，4.2情報宣伝活動，4.3組織の自主性の問題，4.4女子活動における問題，5.1家や部落の民主化，5.2町や村の民主化，5.3青年団活動と国の政治	476
1961	第７回	1:青年の生活，2:生産活動，3:学習活動，4:組織の問題，5:社会活動	1.1農山村のくらし，1.2都市のくらしの問題，1.3漁村の暮らしの問題，1.4二，三男，出稼ぎと兼業農家の問題，1.5中小企業に働らく青年の問題，2.1水稲栽培の近代化，2.2畑作の改善と共同化，2.3農業経営の合理化，2.4女子の生活と生産活動，2.5農政の問題，3.1演劇・音楽活動，3.2話しあいと生活記録・読書活動，3.3勤労青年教育の問題，3.4共同学習の問題，3(特)1人権と差別の問題，3(特)2保健，体育の問題，4.1青年団におけるグループ・サークルの問題，4.2情報宣伝活動，4.3組織の自主性拡大・強化の問題，4.4女子活動における問題，5.1家や部落の民主化，5.2町や村の民主化，5.3青年団と国の政治，5.4人権と差別の問題，保健，体育の問題	447
1962	第８回	1:青年の生活，2:生産活動，3:文化活動，4:学習活動，5:組織の問題，6:社会活動	1.1専業農家のくらしと将来の展望，1.2漁業青年のくらしと将来の展望，1.3山村，へき地，離島に働く青年のくらし，1.4出稼ぎ離村の問題，1.5兼業，在村，通勤，青年の問題，1.6企業に働く青年の労働条件，2.1水田，畑作の技術と経営，2.2蔬菜，花卉，果樹栽培の技術と経営，2.3酪農の技術と経営，2.4養鶏・養豚の技術と経営，2.5農産物価，流通と農協の問題，3.1演劇・音楽活動，3.2保健・体育・レクリエーション活動，3.3大衆娯楽と余暇の問題，4.1働く青年の学級・学校・教育制度，4.2生活記録・読書活動，4.3調査と学習活動，4.4マスコミと学習，5.1青年団内のグループ・サークルの問題，5.2情報宣伝活動，5.3青年団と社会教育行政，5.4青年団に於ける機構と財政の問題，5.5女子活動における問題，5.6社会の変貌と青年団再編成の問題，5.7青年団と他の青年組織，サークルの問題，6.1家や部落の民主化，6.2青年団と地方行政，6.3青年と国民活動，6.4人種と差別の問題	434
1963	第９回	1:青年の生活，2:生産活動，3:文化活動，4:学習活動，5:組織の問題，6:社会活動，	1.1専業農家の暮らしと将来の展望，1.2漁業青年のくらしと将来の展望，1.3山村，僻地，離島に動く青年のくらし，1.4出稼ぎ，離村の問題，1.5兼業在村通勤青年の問題，1.6企業に働く青年の問題，2.1水田，畑作の技術と経営，2.2蔬菜花，果樹栽培の技術と経営，2.3酪農，養鶏，養豚の技術と経営，2.4農産物価，流通と農協の問題，3.1青年団における演劇活動，3.2青年団における音楽活動，3.3保健体育・レクリエーション活動，3.4大衆娯楽と余暇の問題，4.1働く青年の学級学校，教育制度，4.2生活記録，読書活動，4.3調査と学習活動，5.1青年団のグループサークルの問題，5.2情報宣伝活動，5.3青年団における機構と財政の問題，5.4女子活動における問題，5.5社会の変貌と青年団再編成の問題，5.6青年団と他の青年組織，サークルの問題点，6.1家や部落の民主化，6.2青年団と地方行政，6.3青年団と国民運動，6.4人権と差別の問題，（特A）青年団の現状と今後の組織対策，（特B）農業構造改善事業の現状と問題	391
1964	第10回	1:青年の生活，2:経済活動，3:文化活動，4:学習活動，5:グループ・サークル，組織の問題，6:社会活動	1.1農山漁村青年のくらしと組織活動，1.2企業に働く青年の問題と組織活動，2.1農業に於ける生産と販売，2.2農業構造改善事業の現状と問題，3.1青年団における文化活動，3.2保健体育レクリエーション，4.1青年団における学習活動，4.2青年学級・定時制・通信教育の現状と問題，5.1グループ・サークル活動，5.2市町村青年団における活動・機構・財政，5(特)青年団の現状と今後の組織対策，5.3青年団における女子活動，6.1青年団と地域の民主化，6.2青年団と地方行政，6.3青年団と国民運動，5.1青年団のグループサークルの問題	391
1965	——	1:経済活動，2:文化活動，3:体育・レクリエーション活動，4:学習活動，5:組織活動，6:社会活動	1.1専業農家の問題と青年団活動，1.2専業，出稼ぎ農家の問題と青年団活動，1.4商店や中小企業に働く青年の問題と青年団，2.1青年団における演劇活動，3.1青年団における体育活動，3.2青年団におけるレクリエーション活動，4.1青年団における学習活動，4.2働く青年の学級，学校教育制度対策，5.1農山漁村における組織活動，5.2都市近郊における組織活動，5.3都市における青年団活動，5.4青年団における女子活動，6.1青年団と地域の民主化，6.2青年団と地方自治，6.3青年団と国民運動	232
1966	第11回	1:豊かな生活を確立するための活動，2:豊かな青春のためのスポーツ・文化活動，3:運動推進のための組織強化活動，4:平和と民主主義を守るための学習，実践活動，	1.1農業青年のくらしと専業の問題，1.2農業経営の近代化・農政の問題，1.3兼業・出稼ぎ青年の問題，1.4企業・官公庁に働く青年の問題，2.1青年団におけるスポーツ・レクリエーション，2.2青年団における演劇活動，2.3青年団における音楽・文化活動，3.1青年団における学習と実践，3.2青年学級における学習と団活動，3.3青年団におけるグループ・サークル活動，3.4市町村団の活動と体質改善の問題，3.5組織の再建と財政の問題，3.6青年団における情報宣伝活動，3.7青年団における女子活動，4.1青年団と地域の民主化，4.2青年団と地方自治，4.3青年団と地方選挙，4.4青年団と国民運動，（特1）地域開発と青年の問題，（特2）後期中等教育と人間像，（特3）青年団の主体性の問題	332
1967	第12回	1:豊かな生活を確立するための活動，2:豊かな青春のためのスポーツ・レクリエーション活動，3:運動推進のための組織強化活動，4:平和と民主主義を守る学習・実践活動	1.1農業青年のくらしと専業の問題，1.2農業経営の近代化・農政の問題，1.3兼業・出稼ぎ青年の問題，1.4企業・官公庁に働く青年の問題，2.1青年団におけるスポーツ・レクリエーション活動，2.2青年団における演劇活動，2.3青年団における音楽文化活動，3.1青年団における学習と実践，3.2青年学級における学習と団活動，3.3青年団におけるグループ・サークル活動，3.4組織の再編と財政の問題，3.5青年団における情報宣伝活動，3.6青年団における女子活動，4.1青年団と地域の民主化，4.2青年団と地方選挙，4.3青年団と国民運動，（特）農協の民主化と体質改善の問題，（特）全国都市青年問題研究協議会	355
1968	第13回	1:青年の生活と権利を守るための活動，2:豊かな青春をおくるための文化活動，3:生活の実態をみきわめ社会の認識を深めるための学習活動，4:組織を強めるための活動，5:平和と民主主義を確立する活動	1.1農業青年のくらしの問題，1.2農業経営の近代化・農政の問題，1.3兼業，出家ぎ青年の問題，1.4工場と商店に働く青年の問題，1.5官公庁に働く青年の問題，1.6都市青年のくらしと社会問題，1.7農業の問題，2.1スポーツ・レクリエーション活動，2.2演劇活動，2.3音楽活動，2.4郷土芸能と創作活動，3.1学習活動，3.2青年学級・企業内教育による学習と活動，4.1組織の再建の問題，4.2情宣活動，4.3組織の中の女子活動，5.1青年団と地域の民主化，5.2青年団における奉仕活動・環境づくり，5.3青年団と地方選挙，5.4青年団と国民運動	400

1969	第14回	1:青年の生活，2:文化活動，3:学習活動，4:組織活動，5:社会活動	1.1農業青年の生活と将来の展望，1.2兼業，出稼ぎ青年のくらしと労働の問題，1.3企業に働く青年のくらしと労働の問題，1.4女子青年の生活の問題，2.1青年団における演劇活動，2.2青年団における音楽活動，2.3青年団における郷土芸能，2.4青年団におけるスポーツ・レク活動，3.1学習の機会と方法，3.3生活の実態をみきわめる学習活動，3.4社会の認識を深めるための活動，4.1青年団におけるグループ，サークル，4.2市町村団活動と体質改善，4.3都市における青年活動の問題，4.4女子活動の問題，4.5情宣活動の問題，5.1青年団と奉仕活動の問題，5.2青年と地方自治の問題，5.3青年団と国の政治の問題，5.4青年団と国民運動の問題，(5.特Ⅰ)青年大会の現状と今後の展望，(5.特Ⅱ)組織の現状と今後の展望	385
1970	第15回	生活討論部会，1:学習活動，2:レクリエーション活動，3:社会活動，4:組織強化活動，	(生1)農業青年のくらしと生きがい，(生2)労働青年のくらしと生きがい，(生3)女子青年のくらしと生きがい，1.1青年学級と学習活動の改革，1.2青年団における自主的労習活動，1.3青年団における政治学習，2.1演劇,郷土芸能活動，2.2スポーツ活動（野外活動,ゲーム，舞踊活動を含む），2.3趣味活動（音楽，文芸，創作活動など），3.1青年団における奉仕活動，3.2農業の近代化と農政の問題，3.3青年団と地域民主化の活動，3.4青年団と国の政治に対する実践活動，4.1青年団におけるグループサークル活動，4.2市町村団の体質改善，4.3青年団における情宣活動，4.4青年団における女子活動と今後の展望，4.5都市青年組織化のための実践活動	292
1971	第16回	1:働く青年と青年団，2:青年団と学習活動，3:青年団とレクリエーション活動，4:青年団と社会活動，5:青年団と組織活動	1.1農業青年，1.2自営青年，1.3企業・官公庁に働く青年，2.1青年団と青年学級，2.2学習活動，3.1スポーツ運動，3.2文化活動，4.1奉仕活動，4.2地域活動，4.3国の政治に対する活動，4.4農政の問題，5.1農村地帯における青年団，5.2過疎地帯における青年団，5.3都市周辺における青年団，5.4都市部の青年団，5.5青年団とグループ・サークル，5.6情宣活動，5.7女子活動，5(特1)青年大会のあり方，5(特2)社会教育行政のあり方	389
1972	第17回	1:豊かな青春をおくるために，2:豊かな生活を確保するために，3:組織を強くするために，4:明るく住みよい社会にしていくために	1.1青年団とスポーツ活動，1.2青年団と文化活動（A演劇活動）(B)，1.3青年団と女子活動，1.4青年団と学習活動（A青年学級）(B)，2.1農業青年の問題，2.3出稼青年の問題，2.4労働青年の問題，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2青年団の再建活動，3.3青年団と情宣活動，3.4都市青年活動と組織化の問題，4.1青年団と住みよい町（街）づくり活動，4.2青年団と公害問題，4.3農業と農政問題，4.4国の政治に対する活動，4(特)青年会館建設と運営の問題	418
1973	第18回	1:豊かな青春を送るための活動，2:豊かな生活を確保するための活動，3:組織を強くするための活動，4:明るく住みよい社会にするための学習・実践，5:青年団と都市青年の問題	1.1文化・スポーツ活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承，1.4青年団と教育行政，1.5青年団と自主学習，2.1農業青年とくらしの問題，2.2出稼ぎ及び兼業青年の問題，2.3賃労働青年の問題，2.4働く女子青年の問題，3.1青年団とグループサークル，3.2リーダー養成の問題，3.3青年団の再建活動，3.4未組織青年と組織化の問題，3.5青年団と情宣活動，3.6青年団と女子活動，4.1自治体活動と選挙，4.2奉仕活動と自然保護，4.3公害をなくする運動，4.4過疎地域の問題，4.5国の政治に対するとりくみ，5(特)(表題なし)	362
1974	第19回	1:豊かな青春を送るための活動，2:豊かな生活を確保するための活動，3:組織を強くする為の活動，4:明るく住みよい社会にするための学習・実践活動，	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団の演劇活動，1.3郷土文化の継承，1.4青年団と教育行政，1.5青年団と自主活動，2.1農業青年とくらしの問題，2.2賃労働青年の問題，2.3働く女子青年の問題，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2リーダー養成の問題，3.3青年団の再建，3.4明るく住みよい社会にするための学習・実践活動，3.5青年団と教育宣伝活動，3.6青年団と女子活動，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団と奉仕活動，4.3自然保護と公害をなくする運動，4.4過疎地域の問題，4.5国の政治に対するとりくみ	360
1975	第20回	1:豊かな青春を送るための活動，2:青年の生活を高めるための活動，3:組織を強くするための活動，4:明るく住みよい社会にするための学習実践活動	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土芸能の継承，1.4青年団と教育行政，1.5青年団と自主学習，2.1農業青年とくらしの問題，2.2賃労働青年の問題，2.3働く女子青年の問題，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2リーダー養成の問題，3.3青年団の再建活動，3.4未組織青年と組織化の問題，3.5青年団と教宣活動，3.6青年団と女子活動，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団と奉仕活動，4.3自然保護と公害をなくする運動，4.4国の政治に対する取り組み	349
1976	第21回	1:豊かな青春を送るための活動，2:見通しのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を強くするための活動，4:明るく住みよい社会にするための学習・実践活動	1.1スポーツ・レクリエーション，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4芸術，芸能上演上映鑑賞活動，1.5青年と海外交流，2.1農業問題とくらしの展望，2.2賃労青年の問題，2.3青年団と学習活動，2.4青年と生きがい，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2リーダー養成の問題，3.3青年団の再建活動，3.4未組織青年と組織化の問題，3.5青年団と教育宣伝活動，3.6青年団と女子活動，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団とボランティア活動，4.3自然保護と公害をなくする運動，4.4社会教育行政に対するとりくみ，4.5国の政治に対するとりくみ	349
1977	第22回	1:豊かな青春を送るための活動，2:生きがいのある青年活動をつくるための活動，3:組織を拡大強化するための活動，4:明るく住みよい社会にするための学習実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4上演上映鑑賞活動，1.5青年団と文化活動，2.1農業を守り発展するために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3青年と学習活動，2.4地域の生活と青年活動，2.5生きがいと組織活動，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2活動家の養成の問題，3.3青年団の拡大強化，3.4未組織青年や他団体の青年と青年団，3.5青年団の教育宣伝活動，3.6女子青年の活動を発展させるためには，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団とボランティア活動，4.3青年団と環境浄化運動，4.4自然保護と公害をなくす運動，4.5青少年教育行政に対するとりくみ，4.6国の政治に対するとりくみ，4.7民主主義と人権問題に対するとりくみ，5.2青年館の再建運動	410
1978	第23回	1:豊かな青春を送るための活動，2:生きがいのある青年活動をつくるための活動，3:青年団とグループ・サークル活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4上演上映鑑賞活動，1.5青年団と文化活動，2.1農業を守り発展するために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3青年団と学習活動，2.4地域の生活と青年活動，2.5青年活動と生きがい，3.1青年団とグループ・サークル活動，3.2活動家の養成の問題，3.3青年団の拡大強化，3.4未組織青年や他団体の青年と青年団，3.5青年団の教育宣伝活動，3.6女子青年の活動を発展させるために，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団のボランティア活動，4.3青年団と環境浄化運動，4.4自然保護と公害をなくす運動，4.5青少年教育行政に対するとりくみ，4.6国の政治に対するとりくみ，4.7民主主義と人権問題に対するとりくみ，5.1青年団と施設の問題，5.2青年大会の問題	370
1979	第24回	1:豊かな青春を送るための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大強化するための活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4上演・上映・鑑賞活動，1.5青年団と文化活動，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3地域の生活と青年活動，2.4青年活動と生きがい，3.1青年と学習活動，3.2青年団とグループ・サークル活動，3.3活動家の養成の問題，3.4青年団の拡大強化，3.5都市青年の組織化，3.6女子青年の活動を発展させるために，4.1地域民主化と自治体活動，4.2青年団とボランティア活動，4.3たまり場学習推進運動，4.4自然保護と公害をなくする運動，4.5青少年教育行政に対するとりくみ，4.6国の政治に対するとりくみ，4.7民主主義と人権問題に対するとりくみ，5.1 日本青年館再建と青年団の展望，5.2教育宣伝活動の発展をめざして	398

1980	第25回	1:豊かな青春を送るための実践活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための実践活動，3:組織を拡大強化するための実践活動，4:明るく住みよい社会をつくるための実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動発展のために―その役割とめざすもの―，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4上演・上映・鑑賞活動，1.5青年団と文化活動，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3青年団とは何かを明らかにし，生きがいをつかむ活動，2.4地域における青年団の役割，3.1組織再建にとりくむ青年団，3.2青年団の活動家養成 ，3.3都市青年の活動をすすめるために，3.4青年団の学習活動，3.5女子活動の必要性を明らかにし，生き生きと活動を展開するために，3.6青年団の教育宣伝活動，3.7健全な自主的財政確立のために，3.8組織を強化し，発展させるために，4.1地域課題にとりくむ青年団，4.2過疎の村を生きぬく青年団，4.3自然と健康を守り公害をなくす運動，4.4ボランティア活動と青年団，4.5町や村の政治をよくする活動，4.6青年団と施設問題，4.7子どもや青年の教育，スポーツを豊かにする活動と社会教育行政，4.8平和運動をすすめるために，今私たちに何ができるか，5.1青年団運動の発展をめざして	440
1981	第26回	1:豊かな青春を送るための実践活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための実践活動，3:組織を拡大強化するための実践活動，4:明るく住みよい地域をつくるための実践活動，5:郡市青年の組織化のあり方	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇・人形劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演活動，1.5地域に根ざした文化活動をめざして，2.1農林漁業を守り発展させる為に，2.2職場と青年団活動，2.3青年団とは何か，2.4青年団活動と生きがい，2.5地域における青年団の役割，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3青年団の教育宣伝活動，3.4青年団の組織再建活動，3.5活動・行事のあり方，3.6県団・連青の役割と組織，3.7組織の拡大強化のために，3.8女子活動の必要性を明らかにし，生きいきと活動を展開するために，4.1自然と健康を守り公害をなくす運動，4.2地域の生活課題にとりくむ青年団，4.3青年団と施設問題，4.4平和運動をすすめるために，4.5奉仕活動と青年団の役割，4.6地域に根ざす青年団活動を索めて，4.7町や村の政治をよくする活動，4.8同和問題にとりくんで，5(特)都市青年の組織のあり方	409
1982	第27回	1:豊かな青春を送るための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大するための活動，4:明るく住みよい地域をつくるための学習・実践活動，5:新しい地域づくりをめざす組織建設をすすめるために―団体倍増運動―	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演・上映活動，1.5地域に根ざした文化活動をめざして，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3青年団とは何か，2.4青年団活動と生きがい，2.5地域の生活と青年団活動，3.1生き生きとした学習活動をすすめるために，3.2青年団の活動家を養成するために，3.3青年団の教育宣伝活動を推進させるために，3.4未組織青年の組織化と青年団再建活動，3.5青年団活動の行事のあり方・考え方，3.6組織の拡大・強化をはかるために，3.7女子活動の必要性を明らかにし，生き生きと活動を展開するために，4.1自然と健康を守り公害をなくす運動，4.2地域の民主化と自治体運動，4.3青年団と施設問題，4.4平和運動をすすめるために，4.5青年団とボランティア活動，4.6地域に根ざす青年団活動を索めて，4.7国の政治をよくする活動，4.8障害者問題への取組み，5新しい地域づくりをめざす組織建設をすすめるために―団体倍増運動―	434
1983	第28回	1:豊かな青春を送るための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大するための活動，4:明るく住みよい地域をつくるための学習・実践活動，5:団員倍増運動	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と地域文化の創造，1.3地域に根ざした文化活動をめざして，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3青年団とは何か，2.4青年団活動と生きがい，2.5地域の生活と青年団活動，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3青年団の教育宣伝活動，3.4青年団の組織再建活動・未組織青年の組織化，3.5青年団活動の行事のあり方・考え方，3.6組織の拡大強化のために，3.7女子活動の必要性を明らかにしいきいきと活動を展開するために，4.1政治浄化，地域の民主化と自治体活動，4.2平和運動をすすめるために，4.3青年団とボランティア活動，4.4地域に根ざす青年団活動を求めて，5(特)団員倍増運動	395
1984	第29回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大するための活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習・実践活動，5:団員倍増運動	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇・人形劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演・上映・鑑賞活動，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3恋愛・結婚・あととり問題を解決するために，2.4青年団活動と生きがい，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3青年団の教育宣伝活動，3.4青年団の組織再建活動と未組織青年の組織化，3.5女子活動の必要性を明らかにし，いきいきと活動を展開するために，4.1地域の民主化と地域行政に対するとりくみ，4.2青年団と施設問題，4.3平和運動をすすめるために，4.4青年団とボランティア活動，4.5住みよい地域作りと青年団，4.6過疎問題を解決するために，5(特)団員倍増運動	388
1985	第30回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大するための活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習・実践活動，5:団員倍増運動	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇・人形劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演・上映・鑑賞活動，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3恋愛・結婚・あととり問題を解決するために，2.4青年団活動と生きがい，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3青年団の教育宣伝活動，3.4青年団の組織再建活動と未組織青年の組織化，3.5女子活動の必要性を明らかにし，いきいきと活動を展開するために，3.6組織の活性化をはかるために，3.7事業の在り方・考え方，4.1自然と健康を守り公害をなくす運動，4.2地域の民主化と地域行政に対する取り組み，4.3青年団と施設問題，4.4平和運動をすすめるために，4.5青年団とボランティア活動，4.6住みよい地域づくりと青年団，5(特)「団員倍増運動」を進めるために	467
1986	第31回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大強化するための活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習・実践活動，5:教育宣伝活動を強化するために	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇・人形劇活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演・上映・鑑賞活動，2.1農林漁業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3恋愛・結婚・あととり問題を解決するために，2.4青年団活動と生きがい，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3組織の強化拡大，3.4青年団の組織再建活動と未組織青年の組織化，3.5女子活動の必要性を明らかにし，いきいきと活動を展開するために，3.6行事のあり方・考え方，3.7事業の在り方・考え方，4.1青年団と施設問題，4.2平和運動をすすめるために，4.3少年・子供の問題と青年団活動，4.4青年団の地域活動とは何か，4.5地域の活性化と青年団の文化活動，4.6住みよい地域づくりと青年団，4.7IYYで青年団は立ちあがったか，5.1～3教育宣伝活動を強化するために	382
1987	第32回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための活動，2:生きがいのある青年の生活をつくるための活動，3:組織を拡大強化するための活動，4:明るく住みよい社会をつくるための学習・実践活動，5:中長期にわたる青年団強化・拡大の活動	1.1青年団とスポーツ・レクリエーション活動，1.2青年団と演劇・人形劇・合唱活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と上演・上映・鑑賞活動，1.5青年団と文化事業，2.1農業を守り発展させるために，2.2職場の悩みを解決するために，2.3恋愛・結婚・あととり問題，2.4青年団と生きがい，3.1青年団の学習活動，3.2青年団の活動家養成，3.3組織の強化・拡大，3.4青年団の組織再建と未組織青年の組織化，3.5女子活動を発展させるために，3.6教育宣伝活動の充実のために，3.7行事のあり方・考え方，3.8役員・リーダーのあり方，4.1地域の民主化と地域行政に対するとりくみ，4.2青年団と施設問題，4.3平和運動をすすめるために，4.4青年団の国際交流，4.5異世代との交流を活発にするために，4.6住みよい地域づくりと青年団，5中長期にわたる青年団強化・拡大の活動	306

1988	第33回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーション活動，2:生きがいのもてる青年の生活を実現させる活動，3:組織強化・拡大に関する取り組み，4:平和で住み良い地域・社会をつくるための学習・実践活動，5:中長期にわたる青年団強化・拡大の活動	1.1スポーツ・レクレーション活動，1.2演劇・人形劇・紙芝居の活動，1.3郷土文化の継承と創造，1.4青年団と文化事業，1.5青年団と上演活動，2.1農業を守り発展させる活動，2.2職場の問題を解決させる活動，2.3恋愛・結婚問題を解決させる活動，2.4青年団を通して生きがいを見出す活動，3.1学習活動，3.2活動家養成のための活動，3.3組織強化・拡大の活動，3.4組織再建・未組織青年組織化の活動，3.5女子活動，3.6教育宣伝活動，3.7事業の活性化をはかる活動，3.8役員・リーダーの自己成長をはかる活動，4.1地域の民主化・地域行政への活動，4.2平和活動，4.3地域づくり活動，5(特)中長期にわたる青年団強化・拡大の活動	**373**
1989	第34回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための実践活動，2:生きがいのある青年の生活を作るための実践活動，3:組織を拡大強化するための実践活動，4:明るく住みよい社会をつくるための実践活動，5:特別分科会	1.1青年団と演劇・人形劇・紙芝居活動，1.2郷土文化の継承と創造，1.3青年団とスポーツ・文化活動，1.4青年団と上演・上映・鑑賞活動，2.1職場の悩みを解決するために，2.2恋愛・結婚・あととりを解決するために，2.3青年団活動と生きがい，3.1青年団の学習活動，3.2活動家のあり方と養成，3.3組織強化・拡大，3.4組織再建活動と未組織青年の組織化，3.5青年団の女子活動，3.6青年団の教育宣伝活動，3.7事業のあり方と見直し，3.8青年の成長と青年団活動，4.1命と自然を守り農林漁業を発展させるために，4.2平和運動を進めるために，4.3青年団とボランティア活動，4.4住みよい地域づくりと青年団，4.5青年団と国際活動，5(特)各都府県団の組織強化・拡大のための活動	**314**
1990	第35回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための実践活動，2:生きがいのある青年の生活を作るための実践活動，3:組織を強化拡大するための実践活動，4:明るく住みよい社会をつくるための実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ活動，1.2演劇・人形劇の創作活動，1.3イベントの取り組み，1.4伝統文化の継承と保存，2.1農村青年の問題，2.2職場の問題，2.3恋愛・結婚をめぐる問題，2.4青年と生きがい，3.1学習活動，3.2活動家養成，3.3組織強化・拡大，3.4青年の組織化と再建，3.5女子活動，3.6教育宣伝活動，3.7事業の活性化，3.8青年の成長と青年団活動，4.1地域の民主化，4.2平和運動，4.3地域づくり，4.4環境問題，5.1青研集会発展のために，5.2女子活動の答申を生かすために	**307**
1991	第36回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための実践活動，2:生きがいのある青年の生活を作るための実践活動，3:組織を強化拡大するための実践活動，4:明るく住みよい社会をつくるための実践活動，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2演劇・人形劇・合唱等に取り組んで，1.3郷土文化の継承・文化事業などに取り組んで，2.1農業を担う青年の問題，2.2職場の悩みを解決するために，2.3私にとっての恋愛・結婚，2.4青年期と生きがい，3.1団員を増やすために，3.2魅力ある組織運営，3.3組織の役割と課題，3.4リーダーの抱えている課題，3.5青年団の再建，3.6青年団活動の意味?!，3.7女性問題に取り組んで，3.8生き生きとした活動をすすめるために，3.9事業の活性化，3.10教育宣伝活動，4.1自然と健康を守り公害をなくす運動，4.2地域の民主化と地域行政に対する取り組み，4.3平和運動をすすめるために，4.4住みよい地域づくり，5.1県青研修会をすすめるために，5.2町青研集会をすすめるために	**286**
1992	第37回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための実践，2:職場の悩みを解決し，青年の労働・生活を豊かにするための実践，3:集団活動を豊かに推進するための実践，4:不公平・差別をなくし明るく住みよい平和な社会・環境をつくるための実践，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション・文化活動をとおした仲間・地域づくり，1.2上演・上映等の創作活動に取り組んで，1.3私たちにとっての祭りや郷土芸能の意味をさぐる，2.1私の職場，再点検，2.2私の恋愛・結婚と家族，2.3今，青年期を生きる私，3.1真のリーダーシップをさぐる，3.2なぜ組織を強く大きくするのか，3.3多くの仲間たちを迎えるために，3.4地域にアピールする教育宣伝活動，3.5行事運営の魅力を探る，3.6仲間たちに囲まれて私が変わる，4.1足元から実戦しよう環境保護，4.2住民が主人公となる地域づくり，4.3恒久平和の実現をめざして，4.4地域の国際活動，4.5女性活動を今，前進させよう，5.1青年運動の前進のために青研集会をどう生かすか，5.2道府県団での女子活動の充実のために	**263**
1993	第38回	1:豊かな文化・スポーツ・レクリエーションを進めるための実践，2:職場の悩みを解決し，青年の労働・生活を豊かにするための実践，3:集団活動を豊かに推進するための実践，4:不公平・差別をなくし明るく住みよい平和な社会・環境をつくるための実践，5:特別分科会	1.1スポーツ・レクリエーション活動，1.2演劇・ミュージカルなどの創作，上演活動，1.3郷土芸能・郷土文化を発展させるために，1.4文化事業・イベント，2.1仕事と青年活動，2.2恋愛・結婚・あととり問題を解決するために，2.3青年期を生きる，3.2役員・リーダー養成，3.3青年団の意義，3.4活動再点検，3.5団員拡大，3.6組織再建活動，3.7教宣活動，3.8事業の活性化，3.9青年の成長と青年団活動，3.10役員体制の強化，4.1環境問題，4.2平和運動，4.3地域づくり，4.4人権問題，4.5国際活動，4.6女性活動を前進させるために，5(特)青研拡充の総括と今後の対策	**327**
1994	第39回	1:豊かな文化スポーツレクリエーションを進めるための実践，2:職場の悩みを解決し，青年の労働・生活を豊かにするための実践，3:集団生活を豊かに推進するための実践，4:不公正・差別をなくし明るく住みよい平和な社会環境をつくるための実践	1.1スポーツ活動，1.2演劇・ミュージカル等の上演，創作活動，1.3郷土芸能の継承とイベントの取り組み，2.1コメ・農業をとりまく問題，2.2青年期を生きる―私と青年活動―，3.1学習活動，3.2リーダーの在り方，3.3青年団の意義，3.4活動再点検，3.5地区団の活性化，3.6教宣活動，3.7役員体制，4.1環境問題，4.2平和運動，4.3地域づくり，4.4人権・福祉問題，4.5行政・政治，4.6女性活動を楽しく進めるために，4(特)青研集会は楽しく進められたか	**324**

（1955～1994年のレポート数の合計） **14585**

（出所）日本青年館提供資料等より作成。

（注１）分科会名称の数字は部門・分科会番号（「1.1」は「第１部門第１分科会」を意味する）。「特」は「特別分科会」
（注２）1965年第１部門第３分科会，1969年第３部門第２分科会，1972年第２部門第２分科会，1977年第５部門第１分科会，1993年第３部門第１分科会は記録が確認できなかった。

3．全国青研レポート：「青年議会」

表２で示した1955年～1994年の全国青研において共有された１万４千余のレポートの中から，本稿では「青年議会」を取り上げる。

昨今，主権者教育・シティズンシップ教育，民主主義教育，探究学習，校則問題への取り組み（学級活動・生徒会活動などの特別活動）といった学校教育実践とのかかわりで，「中学生議会」「高校生議会」が注目されている[1]。また，子ども・若者の意見表明の権利の実現や，18歳選挙権の施行にともない若い年代の政治参画が議論となる一方，若年層の投票率の低さや政治的関心の薄さも指摘される中，それぞれが置かれている状況や集団に対して若者自身もまた関与し変化を与えうる存在であり周囲の人々や若者たちと協同的にそれを実際に経験できる機会をいかにつくれるかといった関心が広がり様々な参画が議論となっている[2]。さらには，「地方創生」「持続可能な地域づくり」や若年層の人口減少といった地域課題への地方自治体の取り組みの中で，「ふるさと学習」「地元学」，そして「子ども議会」「若者議会」「少年議会」などが紹介されている[3]。

それに対して，こうした活動に連なる経験が日本においても歴史的に蓄積されてきたことは案外知られていない。1950年代半ば以降，村を出ていく青年が増加するなど仕事や生活の様相が大きく変わってゆく中で，出稼ぎや農業の兼業化，開発や公害の問題など，生活や地域の課題をとりあげ，調査活動や討議を踏まえて質問や提案を作成し，それを地方自治体の首長や行政と直接に向きあってやりとりする活動が各地で行われていた[4]。こうした活動は「青年議会」と呼ばれ，1957年の富山県青年団協議会による活動を先駆けとして[5]，県レベル（開始年）では，奈良県（1964年），千葉県（1971年），愛知県（1971年），徳島県（1971年）など[6]，1960～1970年代を中心に各地で広がりを見せた[7]。青年議会の目的を富山県砺波市連合青年団は次のように掲げた。「青年議会は，民主政治の基盤である「地方自治」を確立するため，市町村政を，県政を，住民による住民のための政治とするために自分たちの手で民主主義を確立し，正しい議会活動のあり方や運用を通じて，政治の実態を明らかにしようとするものです」[8]。

そこで，今回は，全国青研レポートの中から「青年議会」（「模擬議会」含む）をタイトルに冠したレポートを抽出し（表３），青年議会活動の実情の一端を紹介したい。なお，必ずしもタイトルに「青年議会」を含まないレポートにも青年議会の実情は報告されているが，ここでは取り上げていない。

対象期間における該当レポートは全部で62本，1960年代から1980年代まで比較的均等にあった。なかでも富山県（12本）や秋田県（15本）のレポートが継続的に寄せられており，県単位のみならず市町村単位での活動の広がりを確認できる。実際の議会の手続きにならって委員会を組織し，行政担当者とのやりとりを行うなどして，現実の自治体の計画や施策，地域課題についての検討を行っている点はおおむね共通している。他方，開催経緯や活動経過には幅があり，時期によって状況も変化している。それを前提とした上で，今回抽出したレポートに書かれていた中から，いくつかの点を紹介する。

青年議会に取り組むきっかけには，他の地域や県レベルでの取り組みに触発されたという面も小さくなく，自身の町でどうしても開催したいと提案して実現させたという人もいた。同一県内の複数地域で行われているところでは，その経験も知られやすく，それらが相乗効果となっ

表3 「青年議会」レポート

No.	年	回	部門(分科会)	レポートタイトル	都道府県	主催団体等	開催時期に関する記述
1	1962	8	6(2)	**青年議会**教育厚生委員会活動を通じて	富山	富山県青年団協議会	「今年で第５回」
2	1963	9	6(2)	**青年議会**活動と反省	富山	婦中町青年議会	「34年度に第１回の町青年議会」
3	1964	10	6(2)	**青年議会**	富山	呉羽町連合青年団	「（S34年）町連合青年団にて，青年議会が計画立案」
4	1964	10	6(2)	今年度の**青年議会**	富山	婦中町連合青年団	「34年度に第１回の町青年議会が実施」
5	1966	11	4(2)	婦人と提携して**青年婦人議会**と取り組んで	岩手	東磐井郡藤沢町（青年会・婦人会）	「始めての青年，婦人議会」
6	1966	11	4(2)	**青年婦人議会**による地方自治への取り組み	秋田	河辺郡雄和村連合青年会	「第二回目を迎えた雄和村青年婦人議会」
7	1968	13	5(1)	**模擬町議会**を開催して	徳島	勝浦郡上勝町青年連合会	「今年度町青年連合会の行事に模擬町議会を組んだ」
8	1968	13	5(1)	**青年議会**を通しての地方自治	福井	福井県連合青年団	「昭和四十年初の青年議会」
9	1968	13	5(3)	**青年議会**を開催して	岩手	遠野市青年団協議会	「[1967年]定期大会（４月９日），満場一致で青年議会開催決定」
10	1969	14	5(2)	**青年議会**活動を通して	秋田	秋田郡五城目町連合青年会	「昨年に引き続き計画」
11	1969	14	5(2)	**青年議会**の重要性	石川	石川郡美川町青年団	「昭和41年，42年の２回，一日町政が開催されましたが，今年はその一日町政を発展的に解消して，青年議会という形で開きました」
12	1969	14	5(2)	**青年議会**の提案と現実の問題	石川	津幡町青年団協議会	「昨年第１回一日町政を開催」
13	1969	14	5(2)	**青年町議会**について	島根	広瀬町青年団	「昭和41年から「青年町議会」を主力活動として取組み，毎年１回それを開催」
14	1970	15	3(3)	**青年議会**に取り組んで	徳島	徳島県青年連合会	「今年度新しく，新しいふるさと造り運動の意味をも持たせて，青年の目で県政を学習すべく青年議会活動にとり組んだ」
15	1970	15	3(3)	**青年議会**と今後のあり方	島根	広瀬町青年団	「昭和41年県下で，二番目の取り組みとして第１回広瀬町青年町議会を開催」
16	1971	16	4(2)	**青年町議会**を開催して	島根	佐田町青年団	「政治学習の一環として青年町議会の開催を[1969年]二月の総会で決定」
17	1971	16	4(2)	地域の民主化と**青年議会**	福井	武生市連合青年団	「青年議会活動は，県下でも昭和40年頃からいくつか開催されてきたが，当武生市連合青年団においては初めての試み」
18	1971	16	4(2)	**青年議会**と地方自治	岩手	矢巾町青年団	「44年３月の定期大会の決定に基づき取り組んだ」
19	1972	17	4(1)	**青年議会**と青年団	愛知	愛知県青年団協議会	「46年７月18日～46年12月５日までの141日間の会期」「初回だからこそ」
20	1973	18	4(1)	**青年議会**活動への取り組み	愛知	安城市青年団協議会	「昭和46年度に第１回安城市青年議会を開催し，色々の波紋を残こし，今年度にバトンタッチ」
21	1973	18	4(1)	地域問題と青年団活動第一回川西町**青年議会**を振り返って	山形	川西町連合青年団	「[1972年]７月20日　社会活動担当理事会を行ない開催要項を決定」
22	1973	18	4(1)	**青年議会**	秋田	小坂町青年団体協議会	
23	1973	18	4(1)	私たちの**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	
24	1973	18	4(1)	**青年議会**（特別委員会活動）を通じて	徳島	徳島県連合青年会	
25	1973	18	4(1)	**青年議会**と青年団活動	愛知	岡崎市青年団体連絡協議会	「本年度から第１回目の青年議会開催に踏み切った」
26	1973	18	4(1)	**青年議会**活動から	富山	婦部郡山田村青年団	
27	1974	19	4(1)	**青年議会**への取り組み	秋田	五城目町連合青年会	「６年前から青年議会を開催」
28	1974	19	4(1)	**青年議会**活動	石川	小松市青年団協議会	「今年で５年目を迎える青年議会」
29	1974	19	4(1)	第一四回月夜野町**青年議会**に参加して	群馬	利根郡連合青年団	
30	1975	20	4(1)	生活イコール政治　**青年議会**再建の道	富山	東砺波郡福野町連合青年団	「福野町青年議会も（略）49年度休会，議会再建委員会の発足となった」
31	1975	20	4(1)	**青年議会**にとりくんで	秋田	鹿角市連青（八幡平地区連合青年会）	「市連青発足とともに一部会員の中から青年議会を開くよう要求がありましたが，諸般の事情もあり，三年目の今年ようやく実現の見通しとなりました」
32	1976	21	4(1)	**模擬議会**	福島	西会津青年連絡協議会	「11月の行事には町政についてもっと知ろうということで，"町政を知る会"を拓きました。役員会に諮ったら町長をはじめ係長クラスを招んで青年会員が議員になって質問しようという事で，模擬議会としました」「模擬議会を実行委員会をつくってやろう」

33	1976	21	4(1)	**青年議会**について	長野	飯山市連合青年会	「青年議会を計画したのは，月１回づつ計６回にわたって公民館の協力により開催してきた青年大学の一環として取り上げた」
34	1976	21	4(1)	**青年議会**を行なって	秋田	平鹿郡大雄村（青年議会）	「私達大雄村の青年議会も早十回を数えました」
35	1977	22	4(1)	**青年議会**活動	群馬	新治村青年団	「新治村の青年議会も，今年で三年目を迎えて軌道にのり始めました」
36	1977	22	4(1)	**青年議会**の現状と今後の取り組みについて	富山	富山市青年団協議会	「富山市の第19回および第20回の青年議会」
37	1977	22	4(1)	青年団と**青年議会**活動	富山	富山市青年団協議会	「富山市の青年議会が昭和32年に全国に先駆けて開催されてから今年で21回目」
38	1978	23	4(1)	**青年議会**を開催するに当り	熊本	玉名郡天水町青年団	「昭和49年度（第１回天水町青年議会）」
39	1978	23	4(1)	私達の**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	
40	1979	24	4(1)	第一回**青年議会**に取り組んで	長野	松本市連合青年会	「「松本市連青第１回青年議会」を（略）行ないました」
41	1980	25	4(5)	**青年議会**をとりくんで	熊本	下益城郡松橋町青年団	
42	1980	25	4(5)	**青年議会**活動	千葉	夷隅郡大多喜町青年団	「今年度大多喜町青年団の基本方針に「郷土を知ろう」ということを上げていることもあり，県の事業でもある青年議会に取り組むことになった」
43	1980	25	4(5)	私たちの後継者の育成**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	
44	1981	26	4(7)	**青年議会**にとりくんで	茨城	新治郡八郷町青年団	「八郷町に於て，青年議会は過去二回ほど取り組まれ，今回で三度目」
45	1981	26	4(7)	**青年議会**活動と社会活動	福井	福井市連合青年団	「福井県でも昭和40年に第１回青年議会が」「福井市でも昭和42年に第１回福井市青年議会が開催」「昭和52年には，昭和51年に開かれた市町と語る会をステッフとしながら，10年ぶりに階催」
46	1982	27	4(2)	十五回を迎えた**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	
47	1982	27	4(2)	**青年議会**に向って	秋田	雄和町連合青年会	「青年議会に取り組んで８年目」
48	1983	28	4(1)	**模擬議会**を実施	青森	木造町青年団連絡協議会	
49	1983	28	4(1)	**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	「今回で16回目を迎える青年議会」
50	1984	29	4(1)	明るく住みよい社会地域作りを目指す**青年議会**活動	富山	富山県青年団協議会	「第27回富山県青年議会」「県内においては，31市町村連合青年団（市青年団用議会）のうち，実に25市町村連合青年団（市青年団協議会）で行われており，県の青年議会も入れると，26カ所で実施」
51	1984	29	4(1)	私たちの**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	
52	1985	30	4(2)	**青年議会**への取り組み	山形	朝日町連合青年団	
53	1985	30	4(2)	第十三回千葉県**青年議会**を担当して	千葉	千葉県青年団協議会	「千葉県青年議会も今年度で13回目を終え」
54	1985	30	4(2)	**青年議会**と青年団について	富山	小杉町連合青年団	「連青が８年ぶりに町の青年議会を復活させる」「富山県の青年議会は昭和32年に開催されて以来，本年度の第28回まで継続されています」
55	1987	32	4(1)	**青年議会**に取り組んで	山形	朝日町連合青年団	
56	1987	32	4(1)	**青年議会**の変貌	秋田	五城目町連合青年会	
57	1987	32	4(1)	**青年議会**を取り組んで	福島	東和町青年会	「昨年の６月25日の青年団体連絡協議会で正式に開催するということを確認し，その後青年議会実行委員会を作り」
58	1988	33	4(1)	青年団**模擬議会**を開会して	栃木	南那須町青年団	「４年前町青年団の結成39周年を機に始められた」
59	1988	33	4(1)	地方自治学習における**青年議会**の役割	岩手	岩手県青年団体協議会	「第７回を数える岩手県青年議会」「昭和34年に第１回岩手県青年議会が開催」
60	1988	33	4(1)	**青年議会**と海外セミナーで得たこと	富山	富山県青年団協議会	
61	1991	36	4(4)	町づくり**青年議会**	秋田	五城目町連合青年会	「今年で24を数える青年議会」
62	1991	36	4(4)	**青年議会**の取り組みと青年団活動	富山	立山町連合青年団	「立山町連合青年団がこの青年議会を開催し，主催者側で議会事務局を担当し，その裏方をつとめ，平成２年度には30回を数えた」

（出所）全国青研レポート表題に「青年議会」「模擬議会」を含むものを抽出し作成。

（注１）備考欄には，開催時期がわかる記載がある場合のみ，該当箇所をレポートから転記した。
（注２）本資料は現時点で一般に広く公開されていないことから所蔵先の日本青年館資料室の了解を得て使用した。執筆者名は記載しなかった。

て広がっていった様子がうかがえる。また，青年議会を始めるにあたり，先行して取り組んでいる地域を訪問したり，資料などを提供してもらったりして経験が共有されていったことも確認できた。

青年議会の議員の選出は，市町村や県レベルの青年団体を構成する各単位団体（旧町村・地区・学校区など）が数名を議員に推薦する（例えば町内８地区の各青年会から１～３名ずつを推薦）という方法をとっているところや，希望者の立候補で行っているところがあった。議員選出に際しては，青年議会や青年議員の存在と活動が周知されている必要があることから，選出の前段として，各地区の青年学級をまわって青年議会について説明することや，青年議会の会報を発行することも試みられていた。こうした青年議会自体の広報活動は，議員候補となる青年に向けてのみならず，地域住民に向けてのものとしても意識されており，青年議会は議員になった一部の青年のものではないこと，多くの青年や地域の人たちの声をくみとるものであることが自覚されていた。とはいえ，なかには，議員のなり手がいないことに苦慮していたというところもあり，数年連続して議員をつとめたという人もいた。

議員の性別も意識にのぼっており，男女がともに選出されることが想定されていたと読みとれるレポートもあった。なかには，複数の女性議員が誕生したものの他の男性議員に圧倒されてしまうのではとの懸念から厚生委員会の中に女性だけの特別委員会を設置させたところもあった。20歳前後の若い議員が多かったところでは，首長や役場関係者の前で意見を述べる経験自体に意味がある，度胸試しでもある，といったこともねらいに盛り込まれていた。

青年議会は，地方自治の学習の機会であり，議会のしくみやルールを学ぶことが主たる目的とされたことから，その進め方も，実際の地方議会のやり方を踏襲して行われた。議員全員が一同に会して行う議会（全員協議会など）と，各委員会によって青年議会の活動は構成された。青年議会が組織された後，まずは自治体職員から予算や計画，課題などについて説明を受け，現地視察や行政担当者の説明を踏まえて，研究，調査，討議を重ね，独自に再度視察を行うなど，委員会活動を学習活動としてとらえているところが多かった。その際，地方議会の進め方を議会事務局など自治体職員が指南することもあった。

青年議会がとりあげる議題は，自治体の予算や計画に対するもののほか，自治体および各地区・各単位団体に起きている問題などが青年議員によって持ち込まれた。何よりも自分たちの身近なところから問題を取り上げていくことこそが重要だとの認識を有していたところもあった。農業構造改善事業による大規模化・大型機械化，減反政策などによる変化の中で，農家の兼業化や通年の出稼ぎ，近郊への通勤，さらには県外への人口流出，それによる学校の統廃合や診療所の閉鎖など，目に見えて地域が変化してゆく中で，青年団体として何かしたい，何かできないか，という思いが青年議会への動機となっているところでは，これまでタブー視されてきた政治的な事柄にもあえて向き合う必要が自覚され，自治体行政への関心を高めていったという。また，企業城下町として発展してきた地域では，一企業への依存による将来への不安とともに公害問題に直面したことから，これからも安心して住み続けることができる地域づくりへの願いが青年議会への動機となっていた。また，公職選挙法違反の摘発を契機として選挙のあり方が問われ，それに対する学習の機会などが設けられる中で，青年たちの中に政治への関心が少しずつ芽生えたことが青年議会への契機となり，「郷土を知る」ことを銘打って取り組んだところもあった。また，青年学級への助成金の減額・廃止を突然に打ち出した自治体に対する問題意識を背景に持つところもあった。

具体的な項目としては,「結婚式における町民センターの利用」「合成洗剤追放について」「文化行政の推進」「広報無線の設置について」「公民館の時差出勤について」「ゴミ焼却場問題について」「旧役場庁舎跡地利用について」「し尿処理場について」「分譲地について」「地場産業育成について」「企業誘致について」「町の観光ピーアールについて」「老人ホームと児童施設の合併」など多岐にわたるものが見られる。また,「青年のための公的施設」「青年会館の建設」など青年教育施設をめぐる議論や「お産の費用を安くする」「出産費用の問題」は複数の青年議会で取り上げらていた。

こうした議題を掘り下げて吟味するのは各委員会であった。本議会までの数か月間をかけて数回から７～８回，なかには10回を超える回数の委員会が開催されていた。設定された委員会には，産業委員会，建設委員会，文教委員会などがあり，調査活動や学習活動が委員会ごとに行われた。青年議会が青年議員だけの議論の場にならないよう，アンケートや直接町内に出ていって住民の生の声を聞くことや，委員会に住民を招いて話をしてもらうことなど，裏づけのある議論への工夫がなされていたところもあった。また，地区から推薦された青年議員は，選出された地域の状況や住民の意見を討議に持ち込むこともあり，そのため各委員会に議員の地区の偏りがないようにふりわけがなされたところもあった。これら委員会の活動は，公民館，保健センター，役場などで行われた。

多くの青年議会は，各委員会活動の中で質問や提案を練り上げ，最後は本会議にのぞむという経過をたどる。本会議には，実際の議場（県議会・市町村議会の議場）が使用されていた。160名もの傍聴者（青年層を含む地域住民）が見つめる中で行われ，青年議員からの質問に対して首長や行政職員が答弁を行い，たびたび拍手が起るなど議場が熱気を帯びたとの報告も見られた。質問を作成するにあたっては，通常の地方議会では目の届かない，青年の目線と立場からの見方を重視したものが意識され，一般質問書を町へのビジョンの提起として自治体に提出することもあった。

青年議会を経て町政にとりいれられたことも数多くあったとの報告も見られる。例えば，公立図書館の利用時間の延長，自治体広報紙の有効活用などである。また若者が時間を気にせず集うことのできる施設や若者定住センターなど青年の意見を取り入れた施設が建設されたところもあった。

他方，課題も指摘されていた。その一つが，政党の党員として活動している者も多く，青年団に加入していない者も少なくない現状で，政治に深く踏み込んでいくことに問題の目が向けられることである。これに対しては，特定の政治的立場に偏った活動でなければ，政治への関心を持ち，学習することは必要であるとの意見が表明されている。その他に，開催時期や曜日の問題（議会は日曜日に行われたところもあったが平日に開催されたところでは参加の困難が指摘された)や, 例年同じような質問と同じような答弁になってしまうことなども課題にあがっている。また，議会となると形式的になり自由な発言が難しくなるとの意見が寄せられたところもあった。しかし，気軽に話し合える座談会とは異なり，青年議員の側も，答弁を担当する自治体職員の側も，その発言に責任をともなうこととなるとして，議会の重要性が再認識されたとも報告がなされている。あるいは，青年たちの関心が薄くなっていることや，本会議・委員会・学習会などへの参加が形骸化しつつあることを懸念する声もあった。恒例行事化して学習会に人が集まらず自治体への質問事項を作成するにも苦労したところなどもあり課題や悩みがレポートには吐露されている。とはいえ，こうした課題を認識した上で，地域づくりの活動

としての青年議会の必要性が確認され，より多くの青年，地域住民を巻き込んだ活動への展望も表明されていた。

4．小括

以上，かつて各地で広汎に行われながらも，その事実が現在において必ずしも知られていないことから，青年議会の活動を伝えるレポートを紹介した。こうした活動は，選挙権や自治と青年の関係にかかわって社会教育の歴史的な議論と実践を背景に持つ[9]。戦後，独自の共同学習論が提唱された山形県で選挙浄化運動における啓発活動からの刷新が模索される中で県連合青年団と婦人連盟の協議によって提案されたのが小団（グループ）による調査や民主的討議を軸とする政治学習であったこととも重なる[10]。青年議会の取り組みは，本格化すればするほど実際の現実に対してどのように関与していくのかが問われてゆく。何らかの社会運動や選挙といった直接行動をとるべきではないか，顕在化した地域課題に対し具体的にどのような実践を展開していくべきなのか，といった，さらなる論点へ接続してゆく。その際，思想・信条・学歴・性別などを問わず同じ地域に暮らす青年であることを唯一の条件として成立する集団（ここでは青年団）が，住民相互の利害対立から地域内に分断を招くような論争的な問題に対して，どのように向きあってゆくのかが問われた。これは，政治学習/教育をめぐる現代的な論点でもある。

本稿は膨大な資料の整理作業の出発点に位置するものであり，本格的な分析・考察は今後の課題となる。

注

1　宮下与兵衛『高校生の参加と共同による主権者教育―生徒会活動・部活動・地域活動でシティズンシップを』（かもがわ出版，2016年），原田亜紀子『デンマークのシティズンシップ教育　ユースカウンシルにおける若者の政治参加』慶応義塾大学出版会，2022年）他。また，浅川和幸『地域探究学習と「高校生議会」実践の連携が高校生の意識をどのように変えたか―「鹿高生による高校生議会」実践の事例研究報告書―』（2024年３月）には，都道府県・市・町村で実施された高校生議会・高校生模擬議会等一覧（意見交換会を除く），および関連文献一覧が収録されている。

2　田中治彦・萩原建次郎編『若者の居場所と参加　ユースワークが築く新たな社会』（東洋館出版社，2012年），両角達平『若者からはじまる民主主義　スウェーデンの若者政策』（萌文社，2021年），宮本みち子編（末冨芳・秋田喜代美・宮本みち子監修）『若者の権利と若者政策』（明石書店，2023年）

3　山形県遊佐町少年議会，愛知県新城市若者議会などが知られている（『わたしたちがかえる若者によるまちづくり　実践事例集』（一般財団法人日本青年館，2023年），「山形県遊佐町　遊佐町少年町長・少年議会公募事業」（『自治体法務研究』50，2017年），「地方発！我が教育委員会の取組―遊佐町少年町長・少年議会公選事業の取り組み：若者の地域活動をまちづくりに生かす」（『教育委員会月報』68巻10号，2017年），「「若者首長」制度に関する一考察：ロンドン市ルイシャム区と山形県遊佐町を事例として」（『政経研究』111号，2018年），『自治体若者政策・愛知県新城市の挑戦　どのように若者を集め，その力を引き出したのか』（松下啓一・穂積亮次編，萌書房，2017年），など）。

4　日本青年団協議会編・発行『地域青年運動50年史―つながりの再生と創造―』2001年

5 『富山県青年団協議会五十周年記念誌』（2000年）による（出所は長澤成次「第三節　青年議会活動の展開と青年団」同上）。ただし，『砺波市青年議会20周年記念誌』（砺波市連合青年団，1979年）には，「昭和30年富山県をかわきりに各地で開催」とある。

6 前掲，長澤2001年

7 日青協でも「第１回日本青年議会」を開催（1969年９月１日～10月28日の58日間，定数100名）したり，『青年議会開催のすすめ』（1973年）を作成した。拙稿「第12章　変化する農村社会における地域青年活動」矢口徹也・辻智子他『日本の文化と教育』（放送大学教育振興会，2023年）。

8 砺波市連合青年団発行『砺波市青年議会20周年記念誌』1979年，２頁

9 矢口悦子・矢口徹也「若者支援と主権者教育―社会教育の歴史的視点から―」日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』（東洋館出版社，2017年）

10 矢口徹也『社会教育と選挙―山形県青年団，婦人会の共同学習の軌跡―』成文堂，2011年

Introduction to Materials: Practical Report on the Youth Parliament

Tomoko TSUJI

Key Words

the National Youth Affairs Research Conference, youth parliament, practice report, youth organization

Abstract

The purpose of this paper is to present reports written by Japanese young people at the National Youth Affairs Research Conference (1955–2021). A lot of youth wrote reports about their practices in their communities. The number of participants in the Conference, which has been held once a year, totaled approximately 20,000 over the 70 years from 1955 to 2021. The object of the Conference is for participants to report on their own activities and experiences, uncover issues related to them, and deepen their exploration by sharing them with other participants, and the report is the key to this. In this paper, I focus on the activities of Youth Parliament. Sixty-two of the reports concerning to the Youth Parliament are selected from more than 14,000 reports written between 1955 and 1994. The activities of Youth Parliament were once widespread throughout the country, but this fact was not currently known, so I present a report on their activities. This paper is the starting point of a huge amount of material to sort through, and I plan to analyze and discuss it in detail in the future.